

第1回 福井県LNGインフラ整備研究会 知事あいさつ

日時：平成25年2月8日（金）

10:30～12:15

会場：ルポール麹町 サファイア

- ・東日本大震災以降、わが国の資源・エネルギーを取り巻く環境は大きく変化している。
- ・私は、震災直後から、災害リスクの分散には国土の複軸化が必要と主張してきた。これは、藤井教授が提案されている国土強靱化に通ずるものがあり、太平洋国土軸に加え日本海側に高速道路、新幹線、港湾、エネルギーのもう一つの国土軸を完成し、災害に強い国土を作ることが、日本がグローバルな中でしっかりとした立場を持てることにもなる。
- ・全国知事会 日本のグランドデザイン構想会議においても、災害に強い国土とするため、日本海側にLNG受入基地およびガスパイプライン網など「エネルギーの道」の整備が必要と提言した。
- ・今後、日本と世界で、エネルギー全体に占める天然ガスの比率が高まると予想され、国内でも、天然ガスの需要増や災害リスクに対応した天然ガスインフラが必要となる。
- ・しかし、現在、日本海側沿岸および日本海側と太平洋側を結ぶパイプラインは新潟など一部にしかない。
- ・日本海側にLNG受入基地やガスパイプラインなどの「エネルギーの道」を形成すれば、災害の時には日本海側が太平洋側の代替機能となる。
- ・私は、原子力は引き続き重要な基幹電源であると考えているが、その一方で、エネルギーのベストミックスの観点から、過度の原子力依存を改めるエネルギー源の多元化、多角化が必要である。中でも、LNGは重要な選択肢である。
- ・現在、ロシアがウラジオストックでLNGプラントの建設を進めているが、これを輸入する場合、日本海側にLNG受入基地やガスパイプラインを整備れば輸送コストの低減にもつながると考える。

- ・福井県には、敦賀港、福井港があり、大阪、名古屋の2大消費地に地理的、地形的に近接している。さらに、送電網等のインフラがあるなど、日本海側でのLNG受入基地やLNG火力発電所の新たな立地場所として最適なロケーションを有する。
- ・日本海側の中心に位置する地理的条件も活かし、日本全体の持続的な発展と成長のために、ガスパイプラインをはじめとする日本海エネルギー国土軸の形成に重要な役割を果たしていかなければならないと思う。
- ・本研究会では、エネルギーをめぐる国際情勢や国内のエネルギーインフラの現状、新たなエネルギー技術の動向などについて調査研究を行いたい。
- ・さらに、福井県内でのLNG基地、LNG火力発電所、ガスパイプライン等LNGインフラの整備に向けた課題、導入促進方策、地域産業への波及効果、県内企業との連携等について検討を進めたい。
- ・各委員には、幅広い観点から、忌憚のないご意見を賜り、本県でのLNGインフラの整備の実現に向け具体的な議論を進めていただくようお願いする。